校友時報

平成元年4月6日
編集人兼発行人
秋田県能代市高塚2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　㈱大勝堂印刷

能代高新時代へ

フレッシュ三二八名入学

65分授業もスタート

3月15日合格発表風景，おめでとう!!

おめでとう、三二八名の新入生たち。

がんばろう、六五七名の上級生たち。

平成元年度の新学期が始まった。今日から高校生活を始める新入生はもちろんのこと、上級生にとっても、この新学期は「能高新時代」へスタートする大切な学期である。延長授業や年回考査への不安が消えたわけではないが、心を新たにして前進しよう。

教科書を買って、さあ、やるぞ!!

新しい制度は、それを運用する人たちの工夫と努力によって生きたものになるだろう。常に主体性を持って、当事者としての意識を失わずに新制度を確立しよう。それは我々に課された使命であろう。

4月の予定

5日(水)	始業式
6日(木)	入学式
7日(金)	対面式
10日(月)	各部説明会
11日(火)	身体測定
14日(金)	レントゲン撮影
17日(月)	個人写真撮影
20日(木)	実力テスト

張り主

真の自由を活かそう

自主性を発揮して

我々が高校入試を受けて進学校を決めるとき、この能代高校の持つ魅力のひとつとして、「校風が自由であること」があげられる。入学前に想像した「自由な校風」とは、制服は当然あるものの、その規制が他校と比べて緩いということ、その他先輩から聞かされる話から、生活全般にわたって校則に縛られないのびのびと明るい能代高校を思い描いていたように思う。しかし実際に生活してみると、この「自由さ」に甘えている様子も見えてくるし、決して学園ドラマにあるような学校ではないこともわかってくる。

確かに能高祭の時の熱い雰囲気には、能高の自由や、能高生としての責任を果たしたという達成感を十分に実感できるのだが……。何故、自由なはずの日常生活で、このような、満足感を感じることができないのだろうか。

そこで自由と紙一重の所に責任があることを見直す必要がある。能高生としての責任とは何であろうか。

伝統的に進学校である我が校。地域社会に対しては、地域の模範となるような生活態度をとり、ある程度良い成績を保持・続けること。親に対しては、希望の進路により経済的に進めるような学力を身につけること。先生方に対しては、与えられた課題は従順ではなく、武士道にすぐれ、高い進学率を残すこと。これらが全て、能高生の責任、義務なのかも知れない。

それは無理だ、こんなに言われるとうんざりする――多くの生徒はこう反発するだろう。だが考えてみると、こうした周囲の人々の期待と我々の希望とは、根底で一致しているのではないだろうか。言いかえると、「周囲の意向に応えなければ……という責任感を、我々自身が自分の現在や将来に抱くの希望を達成する力として、心にとめることもできるということだ。

能高祭では、我々が自分から計画し、自分で実行した。しかし、普段は、自分で計画をたてることもせず、周囲のアドバイスに何となく合いづらをうって、気まぐれに行動している気がする。これでは、満足感はもちろん達成感は生まれる訳はない。だから、本当の満足感を得るためには、我々が自ら行動するということが大切なのである。自分たちの力を合わせてひとつのことを成しとげる喜びと充実感を、能高祭は我々に体験させてくれる。先生方はほとんど我々の自由にさせてくれている。そうだとすれば我々にはその自由を存分に活かして、我々の活動を見てもらう責任があると思う。「自由」は行使しなければ笑われてしまうという論文を読んだことがある。「どうでもいい」というちゃらんぽらんな行動は決して自由は無くなってしまう。

能代高校は、こういう個々の自主的な活動、生徒同志の自発的な活動のしやすい学校なのではないだろうか。「自由な雰囲気」とは生徒がそれに甘えてルーズな生活をするのではなく、自主的・自発的に活動できる雰囲気を言うのではないだろうか。それには、生徒としての責任感が伴うのである。

ひとつ今年は、自分達から進んで動いてみよう。我々の「やれるところ」を見せてやろうではないか。(K)

活力ある人間像

校長　加賀正隆

私たちの生活社会は、大変複雑な仕組みになっております。この複雑な仕組みの社会を支えるため、想像を絶するほど様々な仕事があります。仕事の中には楽な仕事、辛い仕事、そして得な役割があるかと思えば、損な役割もあります。しかしその辛い仕事や損な役割を誰かが担ってくれているからこそ、私たちは安穏な生活ができるのです。

ところで、諸君にとって「仕事」とは何ぞや、と改めて問いかけてみたい。日々問い続けるのは、新しいものの発見につながるだけでなく、今持っているものを見失わないためにも必要なことなのです。問い続けることによって知能が啓け、科学が発達したことは、歴史が証明しております。

一口に問い続けると言っても、そこには、強靭な体力と充実した気力がなければいけません。つまり活力を高め、横溢させることは非常に重要なことなのです。価値ある目標を追求しようとする決意は、人間のあらゆるすぐれた特性を土台となっていきます。誰しも活力さえあれば日々向上し、前進していけるはずです。活力に満ちた人間は、人生において余人には真似のできない大事業を成し遂げることができます。仕事を成功に導くのは、秀でた才能ではなく、活力に支えられた決意なのです。

あくまで、精一杯努力しようとするひたむきな情熱と意志の力です。活力によって人は行動を開始し、前進を続けます。その時はじめて、真の希望が生まれるのではないかと思います。何事においても初めから勇気や自信のある人はいないと思います。哲学者のウィリアム・ジェームスは、「自信を持って、自信がないなら自信があるかの如く振る舞え、そうすれば、いつしか自信が不安にとってかわる」と言っています。

とにかく勇気をもって自ら求め、創造性に富んだ活力のある人間であってほしいと思います。

時間割変わる

A週B週交互に

平成元年度入学式は、今日午後一時から挙行される。新入生はすでに去る二十八日に保護者同伴で登校して、入学について説明を受けているが、何かにつけて不案内であろう。しばらくは、上級生の適切なアドバイスが期待されるところである。

65分授業開始とともなって、時間割なるものに日課表が変わる。時間割はA週用とB週用の二本立てとなり、科目によって一週間ごとの時数が変わる教科もある。日課表はすでに発表されているが、火曜日と他の曜日の時間が違うと言うように、これも二本立てとなりばらつき感いもあるかもしれない。お互い声をかけ合って、混乱を防ぐようにしよう。

今日午後入学式

嘉藤教頭（男鹿高）校長に

教職員異動

転出は十人

三月末に発表された、教職員の定期異動によって、十人の先生方が本校を去られることになった。

▼転出　（　）は転出先。

嘉藤　正教頭（男鹿高校校長）
小助川五郎先生（秋田中央高・定時制教頭）
小玉幸徳先生（二ツ井高）
三村恰美子先生（能代北高）
工藤修先生（秋田中央高定時制）
三浦尚子先生（能代商高）
矢部文康主任（栗田養護学校）
国松健三技師（能代工業高）
三浦進先生（矢島高等学校）
柴田和郎先生（二ツ井高）

以上の先生方は、在職期間の長短はあるものの、いずれも先方を尽くして我々、そして先輩の指導にあたってくださったことは、我々の記憶に新しい。残念な気持ちでいっぱいであるが、これからも能代高校とのおつきあいを続けていただきたい。

転出なさる先生方に代わって、次の先生方が赴任される。

▼転入　（　）は前任校と担当教科。

野中和郎教頭（秋田工業高・社）
清水新吾先生（能代農高・英）
佐藤真孝先生（能代商高・英）
高橋　宏先生（能代工業高・社）
小笠原利光先生（二ツ井高・数）
畠山栄一先生（大館南高・数）
佐々木厚子先生（米内沢高・体）
佐藤博士主任（鷹巣中学校・事務）
村上真紀子先生（釜石南・家）
相沢真理子先生（能代北高・英）

積極的に参加を

生徒会長　池端　覚

新入生の皆さん、能代高校ご入学おめでとうございます。受験勉強で明け暮れたこの数か月を終え、楽しい高校生活を夢見ていることでしょう。

この能代高校には楽しい行事が数多くあります。代表的なものをいくつかあげると、最大行事である能高祭では、何週間も前から準備をして、前夜祭での「クラス対抗の2自慢」や、当日の「個人・HR・クラブデコ」、後夜祭での「クラブ対抗の2自慢」などその成果を競い合います。後夜祭は最高に盛り上がるイベントになると思います。球技大会では、ソフトボール、バレーボール、サッカーなどの球技でクラスの名誉にかけて戦います。四十キロ強歩は、午前零時に学校を出発して（女子は午前一時森岳出発）その名の通り四十キロの道のりを走って（歩いて）学校まで帰ってくるというもので、そのつらさと楽しさは経験したものでなければわからないでしょう。

部活動では、運動部・文化部共に、県下にその名をとどろかせています。新入生の皆さんも、それぞれ入部し、活躍してほしいと思いますが、入る人は、自分自身の活躍が能代高校の新しい伝統になるという気持ちでがんばってください。校訓の「至誠力行」という言葉は、皆さんが体育館に入って初めに目にした言葉と思いますが、「やる時にはやる」という意味に置き換えて、進学校としての自覚を持って勉学に励み、目標を持つことが必要です。今年から六十五分間授業が実施されます。皆さんはもちろん、私たちも初めての経験で、良い結果の出ることを期待し、いっしょにがんばっていきましょう。自分の経験から述べますが、一年生からしっかり励まないと、三年生になって慌てても遅いのです。

皆さん、能高生の一員として、勉学をはじめ部活、学校行事に進んで参加してください。

「初心を忘るべからず」ともまた「後悔先に立たず」ということはあります。しっかりと目標を持ってがんばりましょう。

三点

▼新入生を迎えて、平成元年度が始まった。真新しい制服、真白いソックス、ピカピカの襟章やバッチ――きちんとした身なりは、いく分緊張気味の一年生の表情によく似合う。上級生の中にも、この休み中に髪型を変えた人や靴を新しくした人がいるようだ。やはり、人間は何か新しいことを始めようというときには、身なりを整え、そのことによっていっそうはつきりしようという気持ちになるのだろう。「節目」という言葉があるが、いつものんべんだらりと暮らすことなく、新鮮でメリハリのきいた明るい生活をしたいものだ。

▼「節目」という点では、今年度は本校にとって、校史に残ることを始める節目の年である。授業時間の延長についてはすでに、秋田高校と大館鳳鳴高校という先輩校があるが、両校生徒の感想を聞いてみると、メリット、デメリットどちらも指摘されていた。▼この春休みに行った補習は七十分授業であった。筆者の感じだが、積極的に参加してみると、これは決して長いものではなかった。しかし、ふだん五十分の授業を受けていても、長く眠くてたまらない時もあった。この違いがどこからくるかをよく考えて、新しい時間割の良さを活かしたいものだ。▼新学期といえば、部活動も、新入部員を加えて新しい活動が開始される。ここ一、二年、部への加入率が低くなっているが、せっかく大勢の人に入部してほしい。そして入部したからには、やめないで続けてもらいたい。さらに言えばダラダラおしゃべりばかりでなくて、（時間のもったいないことだ）その部の部員らしい腕を磨くこと、研究を積むことに心をくだくべきではないだろうか。専門家になることだ。サスガ○○部！と思われるところまで到達することを目ざして、計画的な活動をするように、特に部のリーダーたちに希望したい。